

遅れがちなものですから、文化センターが欲しいですね。と申しますのは、今から農業をやる人は、自分が農業を選んだという感覚の人に農業をやっていたらいいし、そのために自立した人間というのは不可欠なわけです。

小堀——それは勤労者としても同じ願いですね。勤労者がいつも自由に参加できるような勤労者福祉会館といったものを積極的に考えていただきたいですね。

そして勤労者の働く意欲、あるいはゆとりある生活環境というものをめざすために、積極的に施設なり、施策をすすめてもらいたいと思います。

知事——先ほど申しましたように、より魅力的な文化的な環境づくりという主旨としては全く問題の核心をついた大変大事なことだと思えます。

しかし、全部が全部というわけではありませんが、本当に立派な公民館という文化センターというものが、県下に



できつつありますね。従来、県がやった一つの実績ですが、地区公民館に対して県単独で補助金を出す制度を数年前からやっています。今まで百六十位の公民館をつくっていますよ。県としてもそういう気運をつくりだすための行政施策をこれからもやっていきたいと思えます。

また県でつくった施設としては県立美術館がありますし、最近オープンした総合運動公園があります。これは本当にみなさんに利用していただきたいという願いをこめてつくったわけですから、とにかく使ってもらいたい。

それから今、県で計画しているのは、一つは県民文化センターがあり、もう一つは図書館ですね。これらはもうすでに予定にはいっていますけれども、他には菊池少年自然の家、あるいは天草青年の家というのも、一ヶ所だけでは困るから他地区にもつくれという話もあります。

それからつけ加えますと、県の施設以外にも各市町村、各地域でいろいろな施設の整備をすすめています。例えば勤労者の野外活動施設とか勤労者文化センターであるとか、そういったものが県下各地にできつつあります。だから段々と要望に沿えるのではなからうかと思えますよ。

それからつけ加えますと、県の施設以外にも各市町村、各地域でいろいろな施設の整備をすすめています。例えば勤労者の野外活動施設とか勤労者文化センターであるとか、そういったものが県下各地にできつつあります。だから段々と要望に沿えるのではなからうかと思えますよ。



▲ いかなる時代にも対応できるように着々すすむ基盤整備（城南町）

熊本の産業に活力を

桑本——私からまずお伺いしたいことは、一九八〇年代とはどういう時代か、ということですね。新しい時代に対応する産業とか、明日の豊かさを知事は提言しておられますが、明日とか新しい時代とか、一九八〇年代とかをどんなふうにごえおられますか。



知事——未来の予測というのは非常に難しい分野だと思います。

どういう時代になるかというのは、まず国際情勢というのがありましょね。それで少なくともいえることは、国際化がますます進んでいくと。これはブラス、マイナス両面があると思います。日本としては孤立した格好でいつまでもいくわけにはいかん。このことは事実だろろうと思えます。

農業にしても、農産物の好・不況と申しますか自然条件に影響されながら生産が伸縮する。そういった国際的な動向を完全にキャッチしてやっていくことは非常に困難です。

だから卯野木さんがいったように、いかなる時代にも対処できる基盤整備というものが必要になるわけです。これは中小企業を含めて、また日本経済全体にいうことですね。それとエネルギー問題があります。エネルギーというのは、日本国内ではほとんど確保できないわけですからね。

もう一つは、やはり県民意識というものが一九八〇年代になれば、さらに変化をしていくだろうと思えます。より文化的な環境で生活したいとか、より美しい生活環境の中で生活したいとかね。あるいはレジャーに対する志向がより高まるといったような変化を必ずしてくると私は思います。それを先取りして、行政というものは今から準備しておかなくてはいけないというのが、新しい豊かさを求めてという趣旨なんです。一口で申しますとね。

桑本——それから熊本新港建設に関連して、対中国貿易を熊本県が促進すること

ができないかということですね。そのために例えば中国からの留学生を受けいれとか、熊本からも留学させるとか。何かそういうことによって熊本の産業に活力を与えてはいかげしょうか。

知事——もちろん現実問題としてあります。宇土市の鋼材会社の製品を、中国へ輸出することによって、その会社は持ち直しました。しかも従来は神戸港なり、あるいは門司、下関から輸出していたのを、北京と交渉することによって八代港から定期的に輸出できるようになりました。現実にはそういう実績もあるわけですね。しかし日先のことの努力も必要ですけれども、大局的にみれば、やはり相当の設備をもった港を整備し、そして地の利を生かしながら、長い目でみた対中国貿易の基地として熊本を表に出していくことが必要でしょうね。当面すべきことと、長期にわたって計画的にすすめるべきことと、いろいろあると思えますよ。だから回り道であっても地道に基盤整備を進めていく努力を積み重ねていく面も確かにあると思えます。

それから留学生についてはですが、これから国際化時代にはいるについて大変重要なご提言だと思います。これは中国だけに限らず、南米にしても、東南アジアにしても、日本が少なくとも経済的・技術的に先進国とするならば国際協力の立

場から行政の面でも考えなければならぬと思えます。

現に中国から、去年から今年にかけて農業事情調査ということで何回も視察団が来熊しています。これは主としてソ業園芸を勉強にくるわけです。

それから県立農業大学校をつくりましたから、外国からの受け入れと同時に、日本の農業後継者も、ブラジルとかアルゼンチンとかに行つて大規模な農業経営をやる位の人材育成を考えたいと思っています。そして向こうで生産したものをこちらへ送るといふようなことも可能でしね。

国際化時代に対応した人の交流というか若人の育成というところで結構なご提案と思えますし、重要なことですね。

桑本——私も商売をやっておりますけれども第一産業、第二産業が発展しないと商売も潤いませんし、まして消費者の生活向上もないわけでございます。

知事は第一産業に重点をおくということですが、これはごもっともでございます。

しかも、観光産業、あるいは社会福祉の充実も図る、中小企業の振興にも留意するということで、いわゆる二次産業、三次産業にもずいぶん重点を置かれていく感じがしますし、それはもちろん歓迎